

繋がり 共に支え合う関係

今年の3月に、「あさひ」の就労移行を利用されていた大木さんが、めでたく㈱荒谷商会さんへ就職されました。㈱荒谷商会さんは、呉市郷原にある自動車解体・部品のリサイクルを行う企業です。1年ほど前から「あさひ」へ下請け作業を提供して頂いていましたが、この度、障害者雇用をされることで声をかけて頂き、就職が実現しました。



工場長さんと大木さんで記念撮影！

大木さんは、時々体調を崩すことがあり「自分のことをわかってもらって、働き方を考えてもらえる会社へ就職したい」という思いを持っておられました。その思いに㈱荒谷商会さんが応えて下さり、体調に配慮した雇用形態での雇入れをしてくださいることになりました。また、会社の皆さんへ障害について説明をしていただくなど、様々な配慮をして頂いたお陰で、現在も元気に通勤され、働く時間も少しずつ伸ばせるようになりました。

近い将来、大木さんが「あさひ」へ提供される下請け作業の担当者として、「あさひ」のみんなに作業指導をする姿を見る日が来ることを楽しみにしています。

多機能型事業所あさひ

支援員 岩岡智之

配慮で思いが実現！

「あさひ」では、施設の一階にあるサロンを開放し、地域の皆さんの活動場所として提供しています。現在、地域の方主催によるヨガ教室と絵画教室が開講されており、毎週金曜日には、「あおぞらばん屋さん」によるパンの販売もしています。

地域の皆様から「気軽に集まれる場所があり嬉しい」との声も頂いており、私達も場所を提供できること、こうして声をかけて頂ける関係が出来ていることを嬉しく思っています。

「あさひ」は開設して4年目ですが、以前の「あさひ作業所」から数えれば、20数年竹原の地でお世話になっていきます。

「あさひ」の建設にあたってサロンを併設したのも、地域の皆さんとの関係を大切にして、地域に密着した施設運営をしたいという思いがあったからです。

サロンの活動を通じて、もともと笑顔が広がり、「あさひ」が地域交流の場になることを願っています。

何かやりたい！始めてみたい！という方がいらっしやいましたら、どうぞ「あさひサロン」をご利用ください。

多機能型事業所あさひ

支援員 早坂駿平

西の池学園

地域での生活に向けて

Mさんは「西の池学園」に入所して20年、今年65歳になる女性です。以前から「グループホームで生活したい」という思いがありました。

昨年からは「あさひ」に通うようになり、入所施設からグループホームへ移った利用者の話を聞く機会が増え、ますますグループホームへ移りたいという思いを強く持つようになったようです。

60歳を過ぎ、生活費の面でも不安がりましたが、「あさひ」で工賃をもらえるようになったこともありMさんのご家族との話し合いの結果、グループホームへの移行に取り組みることとなりました。

そして、一か月間の体験事業を経て、グループホームでの生活にも慣れ、5月から正式に移行ということになりました。最初は不安がっていた洗濯もすぐに覚えて「毎日が楽しい」と、とても充実した生活を送っている様子です。また、入所と同じ共同生活ではあっても、自分だけの空間があり自分の時間が持てることで、対人トラブルもなくなってきました。



ヘルパーとの買い物を楽しむMさん

「初めまして！日々学んでいます！」

今春から「西の池学園」に勤務しております梶山明穂です。

私は、大学で福祉を学びながら発達障害のある子どもの療育ボランティアに参加していました。その経験を通じて、子どもたちの成長に関わり、多くの悩みを抱えながら子育てをしている保護者のサポートをしたいと思い、福祉の道を目指しました。

就職活動の中で、平成会の就職説明会と職場見学ツアーに参加し、職場の雰囲気と利用者の笑顔に一目ぼれし、就職を決意しました。

「西の池学園」の利用者は年齢層が高いですが、今後、児童発達支援の仕事を指すためにも、人の一生の生活の在り様を学ぶために、日々学園で先輩職員から指導を受けながら働いています。これから利用者一人一人と向き合い、自分を高めつつ利用者に頼られる存在になれるよう、頑張りたいと思っています。

支援員

梶山明穂



新入職員の皆さんと

デイセンターこだま

笑顔の理由

今年4月から「デイセンターこだま」に配属された浅野です。平成19年からの3年間「こだま」に所属していましたので、6ぶりに帰ってきた形になります。

6年という月日は長かったなとしみじみ実感しております。まだ10代や20代前半だった方たちが、20代後半になり、ずいぶん成長しておられた。一番感じるのは、自分の意思を伝える力が強くなっておられるところです。言葉でうまく表現することが苦手な方たちですが、いろんな表現方法できちんと伝えておられます。

障害者福祉の世界ではこの6年の間に、法改正など様々な動きがありました。その内一つは意思決定を支援することが制度に明記されたことです。知的障害者、発達障害者の方たちの中には自分の意思を伝える事が苦手な方が多く、その中で、いかに自分で決めるか、意思を伝えるかはとても重要なことです。自分で決めて、人に伝えるにはそれだけの環境設定と支援の工夫が必要です。そして、その意思を、周囲に受け止めてもらい、実現できた経験があつてこそ、自分の意思を伝える事ができる力になり、自信になります。こういった積み重ねがあつて、現在のみなさんの姿があると感じています。

これからも互いに認め合い、尊重しあえる支援を提供できるよう努めてまいりますので、どうかよろしくお願い致します。

デイセンターこだま

支援員 浅野正道



ありがとうございました

日本財団より、平成27年度福祉車両助成事業の交付を受けました。利用者の送迎、お出かけに利用しており、長く大切にさせていただきます。

